

足柄茶コンシェルジュ 4人認定 ～足柄茶の消費拡大へ大きな力に～

3月18日、(株)農協茶業センターと足柄茶ラボが主催する「第4期足柄茶コンシェルジュ養成講座」の認定審査が行われ、新たに4名の「足柄茶コンシェルジュ」が誕生した。(株)農協茶業センターの佐藤美己専務は「新茶の季節を控え、新たな仲間を迎えられることは非常に心強い。足柄茶ひいては日本茶のファンを増やすため、これからも精進して頂きたい」と一人ひとりに修了証を手渡し、激励した。

足柄茶コンシェルジュは、足柄茶と産地について広く知識を持ち、消費者にその魅力をアピールする

「足柄茶の総合案内人」。依頼に応じて地元観光イベントでの呈茶や、商業施設での販売補助などを行い、産地活性化へ貢献している。これまでに33名が認定された。うち13名の「職域限定」資格保持者はJAやJA関連会社の職員で、業務の中で資格を活かしながら「足柄茶」の消費拡大に貢献している。

今回「職域限定」資格を取得したJAあつぎ職員は「足柄茶について多角的に深く知る事ができた。地元組合員が丹精込めた足柄茶の良さを、自信をもっておすすめしていきたい」と力を込めた。

足柄茶の産地・山北町在住の山田悦子さんは、「祖父や父が守ってきた足柄茶について、きちんと勉強したかった」と受講の理由を話し、「将来の夢はお店を持つ事。次の世代に足柄茶の魅力を自分の言葉で伝えたい」と抱負を語った。また、自然学校で活動する瀬戸正功さんは「お茶の良さや美味しい淹れ方を、子供たちにも伝えたい。また足柄茶の魅力をいかに伝えていくか、仲間と知恵を出し合いたい」と話した。「足柄茶ラボ」の石崎雅美代表は「生産現場の声を直接聞き、想いを共有する事ができた五日間でした。足柄茶と産地の魅力を正しく消費者へ伝えていくために、今後も鍛錬を積み、一緒に活動していきましょう」とエールを送った。



新たに4人の「足柄茶コンシェルジュ」が誕生



「足柄茶の魅力を正しく伝えられるか」を審査